



特集 1

も〜っと知ろう！志木の農業 市内で唯一の牧場を紹介

皆さんは、志木市に牧場があることをご存じですか。

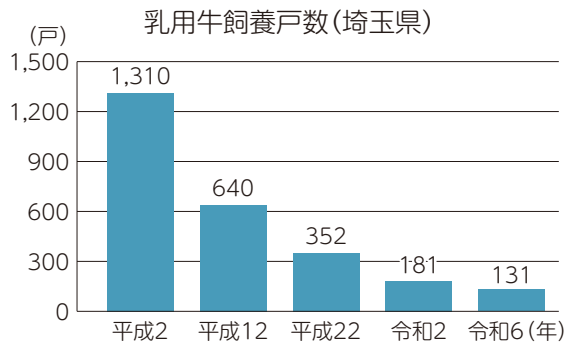
私たちの生活に欠かせない牛乳などの乳製品は、酪農家の存在によって支えられています。

今月は、市内で唯一牧場を営んでいる「池ノ内牧場」を紹介します。生産者の想いを知り、牛乳をはじめとした食べ物への感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。

問合せ／産業観光課 ☎048 (473) 1136

酪農の現状

酪農を経営する酪農家（乳用牛を飼養する農家）は全国的に減少傾向にあります。平成12年に約33,600戸あった乳用牛飼養戸数は、令和6年には約11,900戸にまで減少しており、埼玉県内においても、令和6年の乳用牛飼養戸数は131戸となっています。



出典:農林水産省畜産統計調査

志木市の現状

また、朝霞・和光・新座市などの近隣市を見ても、現在経営している牧場は1戸もない状況です。

市町村	牧場戸数 (平成12年)	牧場戸数 (令和7年8月)
志木市	2	1
朝霞市	3	0
和光市	1	0
新座市	0	0

都市近郊型の牧場

また、経営地内には田んぼがあり、有機栽培・低農薬のお米を栽培しています。牧場での糞などを堆肥として田んぼへ、田んぼで採れた米殻や藁を牧場へと循環させるなど、それぞれを有効活用しながら牧場を営んでいます。



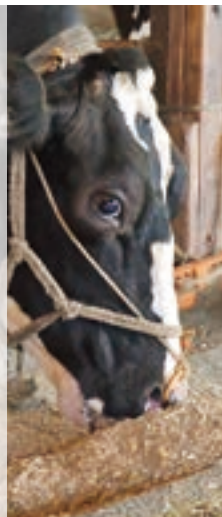


いけのうち まさと
池ノ内 真人さん



生命への感謝。

最後まで責任を――



受け継いだ市内唯一の牧場

昭和35年に経営がはじまり、今年で65年目を迎える「池ノ内牧場」。

令和7年1月、父である池ノ内^{さとし}悟さんから牧場を受け継いだ真人さんは「これまで続いてきた牧場をしっかりと受け継ぐことはもちろん、何よりも牛たちへの、生命への責任がある。必ず最後までやり抜いていきます。」と熱い想いを話します。

はじまりは動物が好き

牧場の経営者として代替わりをしたばかりではあるものの、牧場での経験は19年を迎える真人さん。

宗岡中学校卒業後、北海道の農業高校、埼玉県の農業大学校へ進学。さまざまな経験と学びを経て、再び志木市に戻ってきました。「幼いころから牧場で毎日のように牛たちとふれあっていたこともあり、進路を考えたときも、大好きな動物に関わる仕事がしたいと真っ先に思いました。」と牧場で働くことを決めたきっかけを笑顔で答えてくれました。

池ノ内牧場一日の流れ

牛舎の掃除

6時30分～



ふん糞や尿などを処理して、牛舎を清潔に保ちます。

粗飼料(乾草)

17時～

7時～、11時～、12時～

17時30分～、22時～



輸入された粗飼料を複数回に分けて与えます(1頭あたり1日約13kg)。

搾乳

7時30分～9時30分

19時30分～21時30分



1頭あたり1日に20～30ℓを搾ります。12時間の間隔を空けることで牛へのストレスを抑え、搾乳量の増加にもつながります。

毎 日の変化が面白い

「一頭一頭、姿や表情が毎日違うんですよ。それぞれの個性があって飽きることがないんです。」と牛たちのお世話をしながら楽しそうに話す真人さん。続けて「機嫌が悪いときには思いっきり吹き飛ばされたこともありましたね。」と苦い経験も話してくれました。

毎日の変化を楽しむ一方で、餌の食べ方や搾乳量など、牛たちのわずかな健康状態の変化も見逃さないよう確認もしているといいます。また、常に牛舎を清潔に保ち、こまめな餌やりをするだけでなく、1日2回の搾乳作業は、12時間の間隔を空けて実施するなど、牛たちにとってストレスがない快適な環境を1日中かけて整えます。「休みなく常に牛たちのお世話をするのは大変ですが、やりがいでもありますね。」と楽しさだけでなく苦勞も教えてくれました。

新 たな挑戦と想い

牧場の経営を受け継いだ真人さんに新しく挑戦したいことや酪農家としての想いを伺うと「まだまだ検討段階ですが、いつか牧場で採れた牛乳を生かしたアイスを作ってみたいです。また、皆さんにはぜひ牛乳を飲んでもらいたいです。普段飲んでいる人はプラスで“もう”一杯！牛乳を飲むことは身体に良いだけでなく、私たち酪農家を支え、応援することにもつながります。」と語ってくれました。

生産する牛乳への確かな自信と牧場経営を担っていく覚悟を決めた真剣なまなざしが見受けられました。

地 域の皆さんへの感謝

都市近郊型牧場である池ノ内牧場は、輸送時間の短さによる鮮度の良さや県内の地産地消への貢献などの反面、近隣地域への影響という避けては通れない点もあります。

池ノ内牧場では、乾燥した納豆を餌に混ぜるなど、牛たちの健康を考えるとともに、匂いへの対策も講じています。「どんなに対策をしても匂いは発生してしまう。地域の皆さんの理解があるからこそ長年にわたって続けられているので感謝の気持ちでいっぱいです。」と地域の皆さんへの心からの感謝を話します。

子牛たちにも会える

令和8年1月から5月頃まで、生後3～4か月を迎えた子牛たちが池ノ内牧場前の牧草地で自由にのびのびと過ごします。この機会にかわいい姿を見に池ノ内牧場へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

子牛たちは夏になると埼玉県公共牧場「埼玉県秩父高原牧場」へ預けられ、広い放牧地で大きく成長し、再び志木市へ戻ってきます。



あそびに
きてモー

濃厚飼料(配合飼料)

10時～、11時30分～

18時～、21時～



ビールかすや乾燥した納豆、田んぼで採れた藁など、栄養バランスを考慮したこだわりのブレンド餌です(1頭あたり1日約12kg)。

集めた生乳はどこへ…

JA全農さいたまが 県内の牧場から生乳を回収

毎日、集乳車が県内を巡り、各牧場から生乳を集めます。集乳前には、必ず検査を実施し、安全を確認しています。

埼玉酪農業協同組合でパック詰め、 県内各地のお店や学校へ

再度検査を終えた牛乳は、パックなどに詰められます。池ノ内牧場で採れた生乳が含まれた製品は埼玉酪農業協同組合や県北地域の学校で提供されています。

